

「39窃盗団(サンキューせつとうだん)」

押田興将監督

公開中の「39窃盗団(サンキューせつとうだん)」は、悪いやつにそのかさされて泥棒の旅に出る兄弟をめぐるコメディ。兄(押田清剛)はダウン症。弟(押田大)と、共に旅する幼なじみの女(山田キヌヲ)は発達障害という設定。彼らは、たまされたり、誤解されたりしながらも、生きる強さを失わない。

監督は、プロデューサーとして活躍する一方、ドキュメンタリー作品の演出を手がけてきた押田興将(すけまさ)写真。主人公兄弟を演じるのは、自らの弟たち。ダウン症の清剛のことは、「いつか撮らない」と思い続けてきたという。

ダウン症の弟を撮る



「自分が共鳴するのは、通常当たり前だと思っていることが当たり前じゃないところで生きている人たち。世の中で不幸だと定義されているところで生きている人にとって興味があるし、それを不幸な人だととらえることはできない。なぜかと考えた時、やっぱり清剛という存在が大きいのだろうと思う。家族として生きてきて彼を不幸だと思っただけはなかったのだ」

映画を通して人間を探究する上での原点ともいえる清剛は、もう一人の弟、大と共に、観客の固定観念を鮮烈に裏切る物語をチャイミングに演じる。撮影は、その場で起こることを逃さぬよう、ワンシーン、ワンカットで行い、後から編集したという。

「社会的状況への憤りはある」と言い、知的障害を持つ人々を取り巻く問題も見せるが、あくまでも中心は主人公たち。「この映画では、カメラは常に人間を撮るのだ、ということにしたかった。見ている時は単純に笑ってもらいたい。そして後から、『何なのだろう、あの映画』と思ってもらえれば、作ったかいがあったと思うんです」